

インターネットは  
13番目のプレイヤー

# W杯サッカーの フランス大会 情報システム

日本チームの初出場で大いに盛り上がったW杯サッカーフランス大会。本誌読者のなかにもフランスまで応援に行った人、チケットが手に入らなくてやしい思いをした人、深夜までテレビにかじりついて寝不足だった人、それぞれの楽しみ方があっただろう。そして、こうしたイベントの裏ではインターネットも大活躍していたのだ。

インターネットマガジン編集部  
取材協力/株式会社エーピーシー・ジャパン

## インターネットは 必須な 広報ツール

先日の長野オリンピックでもインターネットをはじめとするコンピュータネットワークは大会の広報メディアとして、そして会場内の大会関係者やプレス向けの情報メディアとして活躍した。今回のW杯サッカーも同様にインターネットやイントラネットが活用されたのだ。

今回の大会ではEDS社がシステムインテグレーションを担当し、回線にはフランステレコム社、ハードウェアにはヒューレットパカード社、データベースシステムにはサイベース

社がそれぞれの製品を提供している。またフランスの電源事情を考慮して、UPS(無停電電源装置)として世界的なシェアを誇るAPC(American Power Convergence)社の製品が採用されているのも特徴だ。



ワールドカップサッカーフランス大会のオフィシャルページ (<http://www.france98.com>)

## 情報基地となる プレスセンター

W杯サッカーの競技場はフランスの国内に点在していて、どこか1か所で開催されるわけではない。離れたところで同時に開催される試合の情報を1か所ですべて集約しているのがパリにあるメディアセンターである。各競技場とメディアセンターの間は光ファイバーで結ばれ、ここに情報が集まる。

このメディアセンターには各国の放送用の設備はもちろん、新聞、雑誌などのメディア用の仕事スペースが用意されている。

プレスセンターへの入場の際には、デジタルカメラを使い、その場で身分証明書がカラープリンターから出てきて、それをラミネート加工することで作成される。以後は身分証明書番号をコンピュータで読み取ることで、その人のプロフィールを確認するというシステムを採用している。

メディアセンターに入場すると、その中には仕事環境だけでなく、ホスピタリティーの設備も用意されており、各国のプレスが長期間にわたって仕事をするには非常にいい環境となっている。最近ではどの国でもインターネットを使って本社とやりとりすることは当たり前になっているようで、それぞれの机には

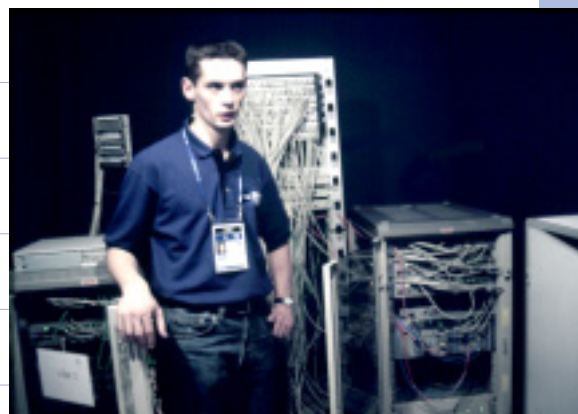
ノートパソコン用の電源コネクタはもちろんのこと、電話のモジュージャックも標準装備されている。



プレスルームにあるイントラネット用クライアント。すべてのクライアントパソコンにUPSが付いているのは驚きだ。



プレスルームでは試合をビデオオンデマンドで見ることができるようになっている。これなら微妙なシーンもより深く分析することができる。



イントラネット用サーバシステムとスイッチが収められたラック。

## 瞬停は当たり前？ フランスの 電源事情

プレスルームには百数十台のクライアントPCが設置されているが、驚くべきことにすべてのPCにUPSつまり無停電電源装置が接続されている。無停電電源装置とは、電源コンセントとPCの中間に接続することで、瞬間的に停電した場合もマシンが落ちないようにしたり、長時間にわたる停電であれば、数分間だけでも電源を維持し、PCを安全にシャットダウン処理するための機器である。

日本ではそれほど多く瞬停があるわけでもなく、こうした装置をつなげずに、クライアントはもちろん、サーバーも運用している人が多いと思う。しかしどうやらフランスでは電源事情はそれほど安定しているわけではなく、瞬停や停電はけっこうあるということである。

国が変われば電源事情も変わるということが実感できる瞬間だ。もちろんPCだけではなく、ハブやルーターなど電源を必要とするものはすべて同様である。



新聞、雑誌のジャーナリスト用のプレスルーム全景。

# インターネットと イントラネット 2つの顔を持つ

っていたり、より詳しい試合経過などを参照できるようになっていたりする。また、各国が出すプレスリリースなども検索できる。実際には紙でのプレスリリース欄も用意されているのだが、こうしたばらばらになったドキュメントの管理は意外と大変なものである。インターネットで参照できることから、使用される紙の量が減って、結果として環境問題などにも貢献しているのかと思いきや、説明員によれば「コンピュータを使うとプリンターが活躍して、結果として紙の使用量は増えているのでは？」ということであった。

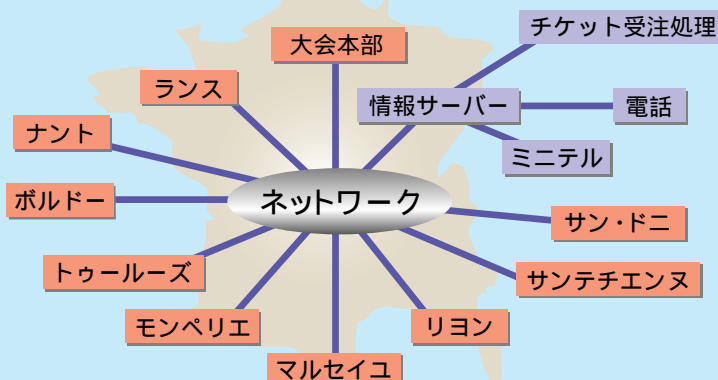
このインターネットとイントラネットの情報は実は同じデータベースに蓄えられた情報に対して切り口を変えて見せるようになっている。こうしたイベントの情報システムに限らず、企業でも最近の情報システムのベースにあるのは単一のデータをいかに社内用と社外用に加工するかということであり、情報管理の基本的なモデルとなるものだといえるだろう。

W杯サッカーフランス大会の情報システムは図のようになっている。システムとしては長野オリンピックのような「実験的」なものは導入されていない。つまり現実的なシステム構成になっているといえる。

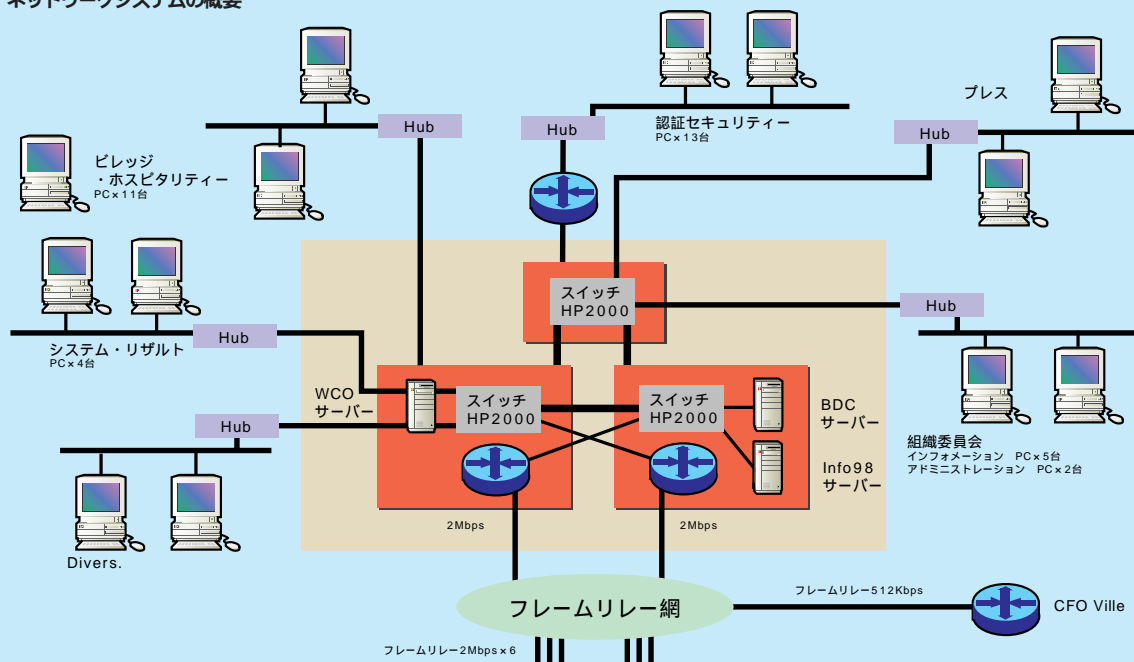
今回取材することができたのは、主にインターネットとイントラネットのシステムである。インターネットは世界のサポーターへの情報を提供するものである。イントラネットはプレス向けのより詳細な情報データベースである。

インターネットでは試合結果の速報をはじめ、各国のチームの紹介、会場やその周辺地域の紹介などを行っている。プレスルームなどで記事を書くプレス向けには、イントラネットが用意されており、試合をMPEGによるビデオオンデマンドで見ることができるようにな

フランス国内の各競技場は光ファイバーで結ばれる



ネットワークシステムの概要



PCをはじめ、ハブやルーターなど主要な装置はAPC社のUPSによってバックアップされている。



## イベントとは 切れない関係

これまで本誌では、大阪国際女子マラソン、長野オリンピック、ウィットブレッドヨットレース（ニュージーランド）などいくつかのスポーツイベントで活躍するインターネットを紹介してきた。これ以外でも最近では多くのイベントでインターネットをツールとして活用し始めている。スポンサーやサプライヤー側からすれば、注目を集めるイベントでの自社製品の露出はマーケティング的に効果があるし、これは結果としてインターネットそのものの認知を上げることに貢献した。

もちろん、既存のメディアよりもはるかに早い情報メディアとして役にたつ。今回もテレビ中継の始まるまえにチームの情報を見たり、テレビ中継を見たあと、試合を振り返ったりというときにインターネットを使った人は多かっただろう。そして翌朝には新聞で記事を読む... というようにファンにとってはたまらないくらい豊富な情報が手に入ったことと思う。

国際的なイベントであればなおさらのこと、インターネットは「地理的」「時間的」な制約を超えたメディアとしてのパワーを発揮していくことだろう。今後もスポーツイベントに限らず、多くの国際的なイベントでインターネットが活躍する機会も増えてくるだろう。

## あの感動はこうして伝えられた！ フランスからのテレビ中継システム

多くの読者が見たNHKのテレビ中継システムでもAPC社の無停電電源装置が入っており、放送用機器も同様にバックアップされている。視聴率が60パーセントを上回る生中継ということであれば、瞬停などによって映像がとまることは視聴者としても考えたくないことである。

プレスセンターの外には放送局が使用する中継用の衛星のパラボラアンテナがいくつも設置されている。これらのアンテナをはじめ、放送施設への立ち入りは厳しく制限されている。狙撃兵（スナイパー）によって警備されており、これもまたお国事情だ。そしてフリーガン（暴徒化するサポーター）問題などのW杯サッカーという大会の性格を大いに反映しているのだろう。



NHKの放送設備(左)とそれを守るUPS(右)。



各国の衛星中継用のパラボラアンテナ。周囲を狙撃兵が守る。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)